

この小石川植物園の森には特別な思いがあります 初めての公展出品で60号を描き入選した題材がこの森でした 自分の絵が東京都美術館に展示されたのを 不思議な思いで眺めたのを覚えています 上林 暁は「一度小説に書いてしまうと その場所に興味がなくなる」と述べています 絵の題材も似ています しかしこの風景だけは特別です 何回描いても その都度新鮮な印象を受けるのです



これが完成した絵です



1、実際の風景写真です 森の中の広い道が 奥へと続いています 右手の森の奥の暗さと 中央奥の明るさの対比が 恐らく描く上での決め手となるでしょう



4、次に緑を薄く塗っておきます 私の場合「リーフグリーン」という絵具を使いますが なければパーマントグリーン（黄緑）とレモンイエローを混色してもOKです



2、現地で描く時は 下絵に鉛筆は使わないことが多いです セピア（こげ茶）を薄く溶いて 水平線 道の輪郭 主な樹木を描いておきます



5、この段階で 樹木を濃く塗り直します 手前の太い樹は立体感も出しておきます



3、着彩の基本は「広い面積の範囲から」「隣り合った範囲を続けて塗らない」ということです 私の場合 まず空 そのあと地面を塗ることが多いです



6、ひたすら緑を塗り重ねます パーマントグリーン サップグリーン シャドウグリーンの順に重ねます 最後に細筆で小枝や小さな葉を描きます 右手の森の奥（木と木の間）は 思い切り暗くするのが重要です